

慶長16年(1611) 8月21日8時 6年後(1617)赤べこ誕生

「慶長会津大地震」で出現した山崎湖水(山崎新湖)

マグニチュード6.9~7.2、震度6強、3700人死亡、2万戸倒壊。天守閣も傾く。桧原湖より大きく、疎通には、正保2年(1645)6月20日までの35年を要す。

『新編会津風土記』によると

「役夫を数千人集めた。湖の大きさは、東西三十五町、南北二十町(約三、ハキロ×二、ニキロ)の大きさで十三村浸水。加藤氏の時に下流を崩したので半分になったが、寛永八年(1631)に再び洪水で塞がれた」とあり、「保科正之の寛文頃(1661~1673年まで)まで湖があり、順次流れを掘り、水の道が元になった」と書かれています。

『会津藩家世実紀』正保2年(1645)6月20日には

「山崎湖水は、慶長十六年(1611)八月二十一日辰刻(8時)地震、山崎村境内日橋川の底涌き揚り、その上青津組南宇内村の山崩れ、その川を突き塞ぎ、所々の川々落水湛えた。三十町余、横二十町余町の間にあふれ、耶麻郡七ヶ村、河沼郡十六ヶ村の田畑一時に湖に相成る。山崎湖水と申す。寛永八年(1631)九月十九日の洪水にて再び押し埋まる。正保二年(1646)閏五月、保科民部父子、御鉄砲衆二百人連れ普請、湖水より五・六里までの郷村百姓二百五・六十人づつ交ごも普請いたし、~段々本田生き帰り、新田開発も相成、成就。」

『会津藩家世実紀』正保2年(1645)8月8日には

「揚川(あがのがわ)筋船路御普請成就」とあり舟運が再開。ただし、下野尻より津川までは荷船は通れなかった。

